

ロンドン最新事情－27年振りの訪問

2011年4月25日

松村

1. ロンドン訪問目的：
 - ・子午線ゼロ（グリニッジ旧王立天文台）
 - ・ロゼッタストーン（大英博物館）
 - ・ミュージカル(マンマ・ミーア)
2. イギリス（United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland）
 - ・面積：243,000 平方キロ(日本の64%)、人口:5852万人(日本の47%)
 - 緯度は樺太と同じ、北大西洋海流の影響で比較的温暖、最高峰でもペンネビス（1344m）で平地やゆるい丘陵が多い。小雨が多いが傘をさすほどではない。
 - ・かつては「太陽の沈まぬ国」「大英帝国」で君臨、第二次大戦終了まで世界の大国。日本の明治、大正、昭和初期の時代は英国文化の影響を受けた。
 - ・通貨はポンド、ペンスで1ポンド=100ペンス（ユーロ未加盟）
為替1ドル360円時代は1ポンド1008円→864円（1967年）→
400円台（1984年）→200円(2000年)→130円台（現在）
 - ・4月29日ウイリアム王子・ケイトミドルトン結婚式で祝賀ムード。チャールズ皇太子は全く人気がない。来年7月にロンドンオリンピック開催であちこちで工事中。
3. 旅行費用(2月9日から16日の7日間)116000円
 - ・航空運賃 福岡ー成田ーロンドン往復7万円(マイレージで2万円バック)
 - ・ホテル5泊（朝食付き）8000円×5泊 4万円
空港送迎他 6千円
4. ロンドンまでの旅程
 - ・「隅田川の水はテムズ川に通ず」（林子平）とあったが、ヨーロッパは遠い国。
東京ーロンドン（パリ）約1万キロでシカゴと同程度。
 - ・現在はシベリヤ経由直行便を利用して12時間程度あれば到着可能
 - ・日本からヨーロッパ（ロンドン、パリ）への所要時間変遷
南廻り48時間（1957年）→北廻り19時間（1961年）、
南回り30時間（1962年）→北廻り17時間(1973年)→
モスクワ経由14時間(1982年)→シベリヤ経由直行12時間（1986年）
5. 訪問先：ロンドン市内、グリニッジ
オックスフォード大学
ストラトフォード(シェークスピア生家)、
コッツウォルズ(田園地帯)
6. 感想
 - ・前はイギリス人と植民地であったインド人という印象であったが、現在は、ロシア、東欧、中国、アラブなどあらゆる人種の混合で、ニューヨークと似た感じ。
 - ・ソ連崩壊でロシア人の上級層および下級層が流れ込む。
 - ・金融の中心シティでは3割がイギリス人以外の従業員。
 - ・「ウインブルドン現象」→「自由競争による淘汰」、つまり市場開放により国内企業が淘汰され、外国

企業が進出し雇用を確保する。法人税28%を23%に下げる予定。

- ・米国と異なり古い伝統を重視するが、一方ではパンクファッション等の前衛的なものも発信し、そのコントラストが妙な感じ。
- ・大英博物館、国立美術館は日本のように混雑しないし、無料。
- ・地下鉄に乗ると iPad (アップルの電子書籍) の利用者が多いのに驚く。
- ・スーパーの野菜、果物はスペイン、ポルトガルなど南方からの輸入が多い。鮮度も悪く、食指をそそる感じがしない。ハロッズなど高級デパートでは品質も良いし高価。
- ・階級間格差は日本より大きい。話す言葉で上流か下流かわかるという。
- ・食事はまずいと言われる国。昼食はパブでフィッシュ&チップス(白身魚フライとポテトフライ)とギネスビール、夕食は中華をメインにする。
- ・パブは日本の居酒屋に相当し、ビジネス情報交換の場。カウンターでの立ち飲みで一杯ごとに代金支払う。Red Lion や White Lion などチェーン店が増える。
- ・寿司など日本食は、味は未知数だがほとんどのスーパーで入手可能、豆腐など日本の食材、調味料も入手可能。

7. その他

- ・パリは美術の都でロンドン演劇の都といわれ、ブロードウェイと並ぶミュージカルのメッカ
- ・1999年以降のロングラン「マンマ・ミーア」を鑑賞。昨年見たブロードウェイでは俳優はヒスパニック、アジアなど多人数種であったが、ロンドンでは全て白人が演じた。
- ・最後のアンコールでは出演者全員が超派手な衣装で踊って歌うが「ダンシングクイーン」では観衆総立ち、のりのりで一緒に歌いながら手拍子。→満足度120%

8. 今後の予定

- ・体力が続けば安い海外旅行を続け異文化に触れたい。ロンドン、ニューヨーク、パリは見所が多いので2~3年に1回訪問したい。

